

# カタルーニャ・クロッシング

カタルーニャと日本。人や企業、そして芸術、生活がクロスする現場を探ります。

## 第2回 ホキ美術館(千葉県)



第2回は千葉の写実絵画専門美術館「ホキ美術館」です。この秋、そして来年、バルセロナのヨーロッパ近代美術館Muséu Europeu d'Art Modern(略称MEAM)と交換展が開催されます。日本の美術館としての国際的な交換展はたいへんめずらしく、現代の写実絵画を通じた両者のクロッシングについて、保木博子館長にお話を伺ってきました。

**AMICS:**初めて伺わせていただきました。たいへんモダンな建築ですね。地下も、空中に浮いたフロアも緩やかな回廊で構成され、それがそのままギャラリーになっているんですね。設計は日建設計さんということでこの企画「カタルーニャクロッシング」にも不思議な縁を感じました。

**保木:**はい、そうなんです。2011年度の日本建築大賞をいただきました。建物のデザインと絵画鑑賞のための快適な設計が評価をいただきました。作品を照らす照明にも全てLEDを使用してるんですよ。天井に開いた無数の丸い穴に、暖色と白色の二色のLEDを作品にあわせ、作品が浮かび上がるように組み合わせているんです。

**AMICS:**ホキ美術館といえば「写実絵画」に特化したユニークさが注目されています。なぜ写実だったのでしょうか。

**保木:**創設者の私の父親が、どうも抽象画はよく分らなかったようです。その一方で森本草介先生の写実絵画に出会い、コレクションを始めました。その後も多くの写実絵画やその作家さんとの出会い、コレクションが300点を越えたあたりから、ギャラリーとしてオー

ブンさせることになりました。ホキ美術館では「写実」は近代絵画の基本であると考えているんです。ルネサンスで遠近法による空間描写がはじまり、さらに油性絵具により、下の色と薄く重ねてぼかすことで自然な色を創出するという油彩の技法が確立されました。この二つが写実絵画の技法です。ですのでここにある絵画の90%は油絵ということになります。

一方同じ写実でも、クールベやミレーに代表される「写実主義」という思潮もあります。こちらは神話や宗教ではなく、日常の風景や対象をそのままに描こうということです。古典主義やロマン主義と対比して語られますが、なにを描くか、つまり主題のちがいが大きいといえます。狭義の写実ということですね。目で見えたままを描く写実絵画の技法は描く対象を超えて確立されてきたものです。

**AMICS:**「写実絵画」と「写真」という点でもうすこし聞かせて頂けますか。

**保木:**リアルという意味では写真の登場が絵画の流れを大きく変えました。絵画は見えたままではなく、感じる場所を描くという現代絵画が主流になっていきました。一方でリアルであるはずの写真はカメラのレンズがひとつです。焦点は浅くなったり、深くなったりします。レンズの特性も画像を左右します。しかし人間はふたつの目で対象を見えています。ですので手前からの奥まで観ている対象に焦点が合っています。それがリアルです。ここに写真とは違う風景、眼で見た通りの理想の風景が生まれます。これを描きたいという作家の写実への欲求と、それを可能にする写実絵画の技法は時代と共に発展しています。現在、日本では世界的に見ても写実画家が多く活躍しています。

**AMICS:**バルセロナのMEAMでも同じような作品がコレクションされているのでしょうか。

**保木:**4年前に石黒賢一郎先生から紹介をされたのですが、初めて訪ねた時の印象は、ホキ美術館の考える「写実」とはちょっと違うかな?と思いました。MEAMでは現代アートへの反語という意味で「フィギュラティブアート」と呼んでいます。具象的であると言う意味ですね。絵画だけでなく彫刻も対象としています。リアリズムにもスペインらしさ、日本の作家との違いがよく現れています。技術的に

は日本の作家の方が上かなと思いましたが、個性的なコンセプトのようなものは向こうの方がはっきりしています。おそらくカタルーニャの方の眼から見ると日本の作品は、ソフトなものに映るのではないのでしょうか。建物も古い貴族の居館を改修したものですから、ことは全く違います。

**AMICS:**とすると今回の交流を促したものはなんだったのでしょうか。

**保木:**先ほどお話した写実絵画の技法は、現代絵画の大きな波の中で一時期、伝承がうまくいなくなっていました。画風を写実に求める作家はスペイン、ニューヨーク、そして日本に偏っていました。そんな状況下で、発表の場を求める作家は自分のフェイスブック等で情報を発信するようになり、支援者へのコンタクトを積極的に始めていたのです。MEAMは2011年に設立されましたが、建築家で実業家のホセ・マヌエル・インフィエスタ氏が2005年から進めてきたフィギュラティブ・アートを応援する財団が発展したものです。コンクールをスタートさせるだけでなく、写実の技法を教える美術学校の運営も手がけています。ホキ美術館は2010年に開設しましたが、やはり3年に一度のホキ・アワードを開催し、若手の作家へのチャンスの創出を進め、アートスクールの実施も始めておりました。写実絵画作家からのコンタクトは両者に向かっていました。

**AMICS:**なるほど、カタルーニャのモデルニスを進めたのは、実業を成功させたグエル氏のようなパトロンでした。日本でもタニマチという同様の考え方がありましたね。

**保木:**そうですね。過去の著名な画家の作品を収集し公開するという芸術支援を否定するものではありません。一方で、今現在、作品に向かっている現役の作家をバックアップする、これからの若手に

五味文彦 「樹影が刻まれる時」2015年



場を与えいくというアクションがないと、時代とともに芸術が育っていくことはできないと思うのです。今、バルセロナにもって行く60点の作品を作家ごとに構成している最中です。9月から展示が始まります。また来年5月から8月にはMEAMの約60作品がこちらにやってきます。AMICSの読者のみなさまには、ぜひカタルーニャで、日本で、時代を呼吸する新たな写実絵画と対面していただきたいと思います。

<AMICSの眼>

ホキ美術館、MEAMはどちらも実業家が個人の意思で実現させたギャラリーです。そこには応援しようのない物故作家(失礼!)の作品を集め多くの人を集客している美術展とは異なる、今この時代に活動する作家への共通したエールがある。美術作品の輸送も大変なコストがかかる。日本からの作品も船でバルセロナに向かうとのことだ。こういったクロッシングな取り組みこそ広く知られ、足を運んでいただき、体験されるべきだと痛感した。

(取材/文 原正彦)

ホキ美術館  
千葉県千葉市緑区あすみが丘東3-15  
開館時間:10:00~17:30 火曜日閉館

●MEAMヨーロッパ近代美術館(在バルセロナ)での展覧会会期  
2018年9月20日~12月2日

## 協会活動

### ◎テルトゥーリア開かれる

去る2月27日に、当協会のテルトゥーリア(講演会とパーティー)が東京の霞会館にて開かれました。講師には、フォーリンプレスセンター事務局長で前バルセロナ総領事館主席領事の嵯峨濃明子さんをお迎えして「日本を愛するカタルーニャ人、カタルーニャを愛する日本人—文化交流の frontline に身を置いて」と題する講演会がありました。講演では、嵯峨濃さんが携わってこられたカタルーニャで広がる日本文化紹介やイベントの最新情報などをご紹介いただきました。パーティーでは、参加者同士の交流の輪が広がりました。約45名の参加。



### ◎サン・ジョルディの日イベント

サン・ジョルディの日の前日、4月22日(日)に東京と名古屋にて、カタルーニャ伝統の「サン・ジョルディの日」のイベントが実施されました。東京では、カタルーニャ語と日本語によるサン・ジョルディ伝説の紹介、およびモンセラットの聖歌「Viriolai」(別名「4月のバラ」)を聴いたり、参加者と一緒に歌ったりしました。一方、名古屋においては、作家による絵本読み聞かせとサイン会、バラの販売や本の展示販売などがありました。また、イラストレーターによるワークショップやぬりえコンテストも行われました。



### ◎初企画!カタルーニャ家庭料理教室 開催予定

この度、初めての企画として、カタルーニャ出身の講師を招いて、日本語での「カタルーニャ家庭料理教室」を東京で開きます。詳細は、会員の方に改めてお知らせします。  
日時:2018年7月3日(火)18:00開場 18:15開始  
講師:パネッサ・ガルシアさん(カタルーニャ出身)

